

# わかしゃち

第8号 2003・5

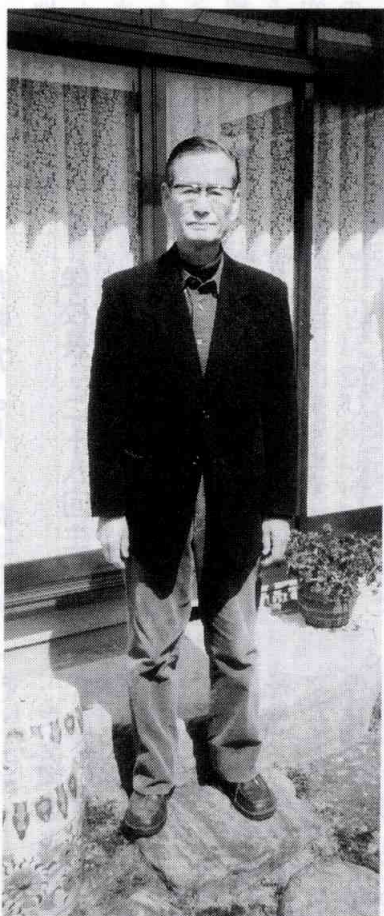
土佐中・高同窓会・東海支部会報  
編集人／35回生 内田順子

Email junkotosa@k8.dion.ne.jp

〒460-0024 名古屋市中区正木3丁目13-13 コスモホーム 気付

TEL 052-332-3370

FAX 052-332-3372



## 万博を控えて

前支部長

二十八回生  
松崎 正雄

四十四年前の昭和三十四年に、当時青年都市と謳われていた名古屋にやつて来ました。その年、東海地方は伊勢湾台風に見舞われ大きな痛手を受けたのですが、愛知県を中心に工業が盛んで、人口の社会増や名港の輸出入の取扱高が飛躍的に伸びており、将来の発展が大いに期待された地域でした。

以来、名古屋を中核都市とする東海経済圏は、トヨタを始めとする輸送機産業の隆盛に支えられ、地道な底力を十分に発揮し、ものづくり産業の卓越した今日を迎えました。そして、二年後に迫った自然の叡智をテーマとする「愛・地球博」の開催と中部国際空港の開港という二大プロジェクトが起爆剤となつて、この地方に大きなインパクトを与えようとしています。

きびしい財政状況にもかかわらず、公共投資による社会基盤整備が着々と推進され、去る三月には圏内到着所で交通のアクセス機能が向上しました。主なものをあげます。懸案だった名古屋ICと都心

の高速道路が直結しました。伊勢湾岸道が、西は四日市J

CTで東名阪道と、東は豊明ICまで延伸されました。来年東名と接続しますと、三河から名港をまたいで、直接、三重県への大動脈が誕生します。また、名鉄小牧線が上飯田連絡線に乗り入れ、地下鉄名城線と結ばれました。

万博に向けては、待望の地下鉄環状線が工事中で、又、名古屋駅から金城ふ頭まで臨海高速鉄道も開通します。

道路網では都心の明道町JCTと一宮IC間が完成し、関西方面への利便性が一段と高まります。そして万博会場のアクセスとなるリニア式の東部丘陵線や、岐阜県から東海環状道の部分開通も見込まれています。

私共が豊かで潤いのある生活を送るには、水準の高い賑わいの空間が望まれます。

この秋には松坂屋の新南館が、二年後には三越南館も開店し、愛知芸術文化センターなどと相まって、名古屋の栄

地区は、より文化的な憩いの街となります。

一方、名駅地区では四年後にはトヨタビル等二つの高層ビルが完成します。JR東海のツインビルとともに東海経済圏のダイナミックな躍進を象徴する業務娯楽ゾーンが出現するでしょう。

中部国際新空港の拠点駅となる金山駅前の整備も行われます。

日本の中央にあり自然環境にも恵まれたこの地の未来に大きな夢を託し、各自がそれぞれの持ち場で、この第二の故里の発展に少しでも貢献してゆきたいものです。

## 母校だより

学校長 二十八回生

池上 武雄

三月十八日、全国のトップを切って高知市の桜の開花が宣言されましたが、東海支部の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申しあげます。

早いもので昨年四月、母校校長に就任以来あつという間の一年が過ぎました。森本、浜田両教頭先生を始め教職員の皆様、振興会、同窓会の多くの方々に支えられて無我夢中で過ごして参りました。しかしながらこの一年を振り返ってみますと、唯々未熟さを痛感するのみで、先生方に数々のご迷惑をお掛けしていることを反省しております。

さて、本年度の大学入試は、三月二十六日現在で、国公立33名(現90)、私立37名(現177)の合格者です。主だったところで、東大現2名、京大9名(現2)と決して良いとは申せませんが、阪大は18名

(現15)と近年にない好成绩でした。

また国公立医学部医学科は、22名(現12)のほか自治医大も現2名合格など頑張ってくれました。

今年の私立大は、来年度からの入試制度変更(五教科七科目)に対応した浪人勢の私立大受験の増加と上位私立大の合格者の絞り込みの両方の影響からか、現役生にとつてはかなり厳しかったようですが、最難関校クラスで慶応19名(昨年10)、早稲田40名(同29)、東京理科24名(同14)、同志社24名(同20)、関西学院17名(同16)といずれも去年を上回っております。内、現役生もそれなりに頑張ってくれております。

私の掲げました毎年東大、京大各二桁の目標には結果的に及びませんでした。これも新校長の未熟さ故と大いに反省し、捲土重来を期して頑張らしたいと考えております。皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。

二月十五・十六日、二年振





合唱コンクールで「北風小僧の寒太郎」を歌う先生方

## 土佐高監督に高多氏

同校OBで元住金監督



りに向陽祭が開催され、その中で第十八回中学合唱コンクールが講堂で行なわれまし  
た。一年生から三年生まで全  
十五クラスが各クラス毎に、  
課題曲、自由曲の二曲を全力  
をあげてひたすら歌いあげる  
というものです。その真剣さ、  
一生懸命さにご来場の保護者  
の皆様、一般のお客様皆様か  
ら唯々感動したというお褒め  
のお言葉をいただきました。  
私も大変嬉しく、また感激の  
あまり思わず涙がこぼれそう  
になりました。正に土佐らし

さの溢れたイベントでした。  
(写真は先生の余興「北風小  
僧の寒太郎」の歌の場面です)  
昨年十一月二十三日、元教  
頭、野球部元監督の籠尾良雄  
先生が突如としてこの世を去  
られました。誠に痛恨の極み  
で、これからいろいろとご指  
導いただきたいと考えており  
ましただけに、私にとっては  
何か胸にぽっかり穴が空いた  
ような気持ちでございました。  
しかし先生の残された「右  
文尚武の理想、ひたぶる全力

疾走、純白の土佐とわに輝け」の伝統を必ず受け継ぐことと、土佐校野球部の甲子園復活を先生の御霊前にお誓いました。

そのこともあり、かねて野球部指導陣の強化を考えておりましたことから、住友金属工業(株)で活躍中の高多倫正君(四十七回生、土佐、慶応)とともに主将、社会人野球では選手、監督で都市対抗、日本選手権延べ六回の優勝経験)をご無理をお願いして、新学期から本校教諭(社会科)として迎えることが決まりました。三木部長、高多監督の強力体制で甲子園を目指して頑張つて参ります。皆様にもご期待いただきたく、いつそうのご声援をお願いいたします。

最後に会員の皆様のご健勝とご活躍、東海支部のますますのご発展をお祈り申しあげ報告とさせていただきます。

(平成十五年弥生)

## 本部だより

### 今、高知の城下へ来て見いや

幹事長 三十九回生

安岡 範悦

今、高知ではフランスの高級ブランド、ルイ・ヴィトン高知店の話が話題となっています。ルイ・ヴィトン高知店は土佐高三十一回生、秦郷次

郎先輩が社長であるルイ・ヴィトンジャパンカンパニーが、東京の表参道店、名古屋店に続く国内三店目の単独路面店として、日曜市の起点となる高知市はりまや橋三丁目の蓮池交差点に着工中でした。三月二十七日に店舗を覆う広告シートが取り外され、白く小さなライムストーンを積み重ねたしゃれた外壁が姿を現し、二十九日には式典、三十日に開店となりました。新聞報道によれば二十九日のテープカットには高知市出身の女優、広末涼子さんも登場、店の前は七百人近いファンで騒然となり、近くのビルも鈴なり状態、東京からもテレビ二局がワイドショー取材に駆けつけるなど、名所誕生にふさわしい盛り上がりを見せました。店内には約九メートルの吹き抜けが三か所に設けられ、ゆったりとした空間に、伝統のトランクから、最新のコレクションまでが整然と陳列され、少々緊張気味のスタッフ笑顔が対応された様子です。

いよいよ三十日、開店時刻の午前十一時には女性を中心に約三百人が行列をつくり、結局この日の入店客数は八百五十人にのぼるなど不況知らずの高級ブランドの威力を見せつけました。さらに、この初日の売上高は同じ日の同社の国内四十五店舗で最高だったそう、高知店のような国内の中規模クラスの店(約五百平方メートル)がオープン日とはいえ、世界最大規模の表参道店(約千二百平方メートル)の売上高を上回ったのは初めてとの事です。

「西に高知城、東にルイ・ヴィトン」と言われるようにしたいと秦郷次郎先輩の期待通り、「故郷高知の新名所・名物」となり、高知活性化の起爆剤となると思われれます。

## 同窓会あちこち

## 関西支部だより

事務局長 五十六回生

原田 和人

東海支部の皆様、こんにちは。関西支部では今年の一月二十五日(土)、恒例の支部総会・懇親会を神戸のホテルオークラで開催致しました。当日は母校の池上校長をはじめ、同窓会本部・各支部から多数のご来賓を頂き、総勢百三十余名の方々にご参加頂き、前年のザ・リッツカールトンホテルでの開催同様活気あふれる開催となりました。また、今回は当日飛び入り組含め十六名もの学生の参加があったことで、会は更に盛り上がりました。東海支部からは、ご多忙の中、大高坂支部長に遠路ご臨席を賜り関西支部幹事一同大変感謝しております。ありがとうございます。

さて、総会では川崎美栄子関西支部長よりご挨拶を頂いた後、平成十四年度の活動報

告・会計報告があり、承認されました。続いて午後五時半より遠路高知よりご参加頂きました中澤節子先生の乾杯で懇親会が始まりました。午後七時半を過ぎたところで恒例の『よさこい鳴子おどり』が始まりました。これは高知から本格的な踊りの先生をお迎えしての毎年皆が楽しみにしている企画です。全員参加の踊りで会場は熱気の渦に生まれましました。その後応援歌を歌い、北村旦(元)関西支部長の挨拶を頂きました。開催予定時間の二時間は、盛り上がりの中あっという間に過ぎてしまい、三十分延長の後、午後八時に閉会しました。

来年二〇〇四年度の関西支部総会・懇親会については、昨年は大阪、今年は神戸と開催して参りましたので『三都物語』の最後を締めくくるべく京都での開催を予定(一月二十四日(土)午後五時、京都ホテルオークラ)しております。詳細は後日改めてご案内させて頂きますが、京都は神戸・大阪より東海地区に近いので、東海支部の皆さんのご参加も心よりお待ち申し上げます。

最後になります。事務局は今年度の二月の幹事会で長年にわたり関西支部の事務局を一手に引受けてこられました中山事務局長(四十六回)より

五十六回の原田へ引継ぎをさせて頂きました。中山事務局長の功績が大きかっただけに、プレッシャーもあります。皆様のご指導ご鞭撻を賜りながら、精進していきたいと思います。どうか宜しくお願い申し上げます。



池上校長と青春若き学生さんたち

## 広島支部だより

支部長 四十回生

沖 修一

公園や街路樹の花も梅、木蓮、桜、雪柳、躑躅、阜月と移り、風薫る季節となつて参りました。東海支部の皆様いかがお過ごしでしょうか。

広島支部も昨年（平成十四年）十月二十六日に池上武雄校長先生のご来駕をいただき支部総会を盛大に行いました。ホテルニュー神田代表取締役の浜田英生先輩（三十七K）の「ホテルの窓から、経営者として思うこと」と題する講演を行っていただきました。今回の支部総会の特徴は、翌日の十月二十七日に江田島の旧海軍兵学校（京都大学出身というよりは海軍兵学校出身の古谷先生に日本史の講義を受けた私としましては、江田島は海上自衛隊幹部候補生学校や第一術科学校というよりは、やはり海軍兵学校の方がびつたりきます）へ見学ツ

アーに行ったことでした。個人は所用がありこのツアーには参加できませんでしたが、現地では第一術科学校総務部長村田彰夫氏（四十一H）（階級はわかりません）に案内していただき、通常では見学できない所も見せていただいたとのことでした。写真はそのときのものです。

皆様は「肉じゃが」が東郷平八郎の命により海軍で創作されたこと、海上自衛隊では海軍の時代から伝統的に金曜日の昼食はカレーであり、しかも艦上では各艦船により独特の味付けがされており風味が異なっていることをご存知でしょうか。私も一度だけですが平成十三年四月二十九日護衛艦「のしろ」に体験航海で乗艦させていただいた折りに、艦内の士官食堂で、時の第二十二護衛隊司令石井奨一佐の計らいで「のしろ」のカレーを食べさせていただいたことがあります。少し辛みのあるココのある味を楽しんだことを覚えています。また呉市から江田島にかけては



江田島旧海軍兵学校にて

「海軍さんのコーヒー」という名のコーヒーを売っています。ほろ苦味の利いた懐かしい味のコーヒーですが、コーヒーの包装紙を開いた瞬間に包装紙に「帝国海軍五省」が書かれているのを発見し、その一文一文が心に響き、忘れていた何かが思わず胸にこみ上げ、感動します。

の旧海軍兵学校見学ツアーは大変好評でした。本年の支部総会でも何か新しい企画を考えておきますので、東海支部の方々もぜひ広島に遊びに来ていただきますようお願い申し上げます。

私事になりますが、拙宅は広島市の西（西区）の高台の住宅街にあり、近くには瀬戸内海と海に浮かぶ島々を見晴

らす気持ちの良い公園がいくつかあります。公園の中には植木としてヤマモモが沢山植えられており、多くの木で実がなります。昨年のヤマモモはやや不作でしたが、花の付き具合からすると今年は豊作のようです。家内も子供も実を食べませんが、子供の頃祖母のいる田舎の家に行ったとき、裏山のヤマモモの大木に上って実を採ったことを思い出しながら、平皿の上に実を一面に並べ、塩をかけてコロコロと転がした後、私一人が爪楊枝でつついて悦に入っています。実が大きくなりおいしくなる木が四本あります。自分勝手に「かめぞう」であろうと決めていきます。イラク戦争も一段落した今、ヤマモモの熟れる頃には新種の肺炎(SARS)も落ち着いているでしょうから、ヤマモモを採って同窓会の皆様に食べていただき、ヤマモモの味と一緒に日本の平和と安穩を噛みしめようかしらと思っております。

## 関東支部だより

副幹事長 六十回生

廣瀬 裕子

色とりどりの花々が咲きそろうい、心躍る季節となりました。東海支部の皆様におかれましては、お健やかに新年度をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、関東支部のこの一年の歩みを簡単に紹介させていただきます。

恒例の支部総会は、二〇〇二年六月一日、池上武雄新校長をお迎えして、代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで行われました。東海支部からも三十一回生の久保徳子さま、四十一回生の村山文世さまにお越しいただきました。記念講演の講師が、あのルイ・ヴィトン・ジャパンの秦郷次郎社長(三十一回生)であったことも手伝ってか、参加者は例年を大きく上回る三百二十名にのぼり、懇親パーティーではお料理の減り

具合を心配するほどの盛会となりました。

十月には、初めての試みとして、七十回生以下の若手同窓会が開催されました。支部総会への若手の出席率が低く、就職活動などに折角の土佐高ネットワークが生かされていないことから企画されたものです。会場となった広尾の羽澤ガーデンは、旧満鉄総裁邸跡に建つ瀟洒なレストラン。当初心配された参加者数も、ふたを開けてみれば百名近くにのぼり、熱気あふれる会になりました。総会では「若手」だと思っていた私も、この日ばかりは「来賓」で、少々、戸惑いを憶えましたが、若い同窓生のパワーをいただき、楽しいひとときを過ごすことができました。この若手同窓会は今後も継続され、いずれは関東支部の活動の柱のひとつになるのではないかと思います。

この会が縁で、若い女性が一気に三名も、支部の会報『筆山』の編集に加わってくれることになりました。西岡恒憲



編集長(四十一回生)の下、『筆山』に新風を吹き込んでくれると期待しています。今年に入り、二月八日には学年幹事会が開かれ、六月七日(土)の支部総会に向けて、新たな活動がスタートしました。今年には三の回生の皆さんが総会幹事を担当してくださいます。東海支部の皆様のご参加をお待ちしております。関東支部の活動は支部ホームページで御覧いただけます。筒井康賢編集長(四十一回生)のご尽力により、タイムリーに更新されています。是非覗いてみてください。

## 香川支部だより

幹事長 三十六回生

宮地 正隆

東海支部の皆さん、こんにちは。香川支部では、毎年七夕の頃、七月の第一土曜日を、総会の開催日として決めております。昨年も七月六日にJR高松駅前のホテルニューフロンティアで「七夕総会」を開催いたしました。当日は、東海支部の竹原幹事長をはじめ、母校ならびに同窓会本部、他支部から多くの皆様方に御臨席を賜り、誠にありがとうございました。おかげさまで約四十名の先輩・後輩が集まり、盛大な会を催すことができました。

また昨年は、ご来賓の皆様方と、サンポート高松のシンボルとなっている全日空ホテルレメント高松の二十一階にある「バー・アストロ」において、高松の夜景を見ながら延長戦（二次会）に突入し、昔話や今後の土佐高や同窓会

について、時を忘れ話し込んでしまいました。

さて、香川支部では、平成十五年度の新しい役員体制が固まりました。香川支部は転勤が多いため、役員体制がなかなか固定できない悩みがあるのですが、お手伝い頂ける役員数を増やすことで乗り切ろうと考えています。今年も、幹事の熊野、藤井両氏に代わり、新たに幹事として、安岡弘道（四十一回）氏、北村伸一（四十五回）氏、川村義明（四十八回）氏の計三名がご協力頂けることとなりました。正式には七月の総会で承認を頂くこととなりますが、この春からはこの布陣で運営してゆくこととなりますので、今後ともよろしくお願い致します。

## 田舎の開業医

四十四回生

岡宗真一郎

土佐高等学校四十四回生の皆さんお元気ですか。私は、三重県志摩郡磯部町で元気に内科開業医をしております。驚かれる方、生きていたのかとご心配頂く方、私はそれなりの人生を送っております。

南先輩から原稿のご依頼を受け、慣れないパソコンに向かっていきます。先輩は「赤ひげ奮戦記」をとの事でしたが、田舎の開業医の日常で、テレビドラマのような劇的な事件が起こることもなく（起きても困ります）平々凡々と一日が過ぎてゆきます。午前中は



外来主体の診察、お昼の休憩後往診に出掛け、午後の外来を済ませると一日が終わります。そのような中で、警察医の委嘱を受けている関係で、時々警察から電話があります。死体検案の依頼です。病死、事故死、自殺等の方で、現場近くの開業医ドクターが対応できない時に電話が掛かって来ます。朝、昼、夜、夜中、仕事中かどうか関係なく依頼があります。関係者の方々のご苦労を考え、時間の許す限り現場に赴きます。私の住む志摩郡は面積が広いので、大抵警察の車に乗せて頂き現場まで行きます。迎えの方が普段馴染みのない方ですと、話す糸口もなく、現場に着くまでに該当者について一

われらわかしゃち



言二言質問するだけで、後は寝たふりをしています。この死体検案で一番勘弁して欲しいと思うのは、夏場で時間の経過した方です。独特の臭いがあり、とても表現できないすごさです。自分の着ている服や髪の毛に染みつくように、現場を離れてもその臭いが鼻についてしまいます。検案時警察の方により事件性があるかどうか判断され、司法解剖になるか決まります。百例近くの検案を経験した中で、事件性を考慮する方はありませんでした。

普段、人の死に接する事の多い仕事ですが、在宅診療での死の判定には慣れません。家族皆に囲まれて迎える臨終の場において、いわゆる死の三徴候で判定します。重苦しい雰囲気の中、家族の方の悲しみが胸に突き刺さる気がします。この死を迎える場面は個人個人により差があります。家族に見守られ逝く人、一人寂しく何時の間にか旅立つ人、突然逝く人、存分に世話をかけて逝く人。何がこの

違いを生み出しているのかと考えてしまいます。神ならぬ身にとり何とも判りかねます。

医師という仕事のせいか、世の中の皆様（特に老年世代の方）に健康な社会生活を営んでももらいたいと常に考えています。体の調子を崩している方を、どうすれば元の健康生活にしてあげられるのかと悩む時もありました。そんな時、ある老人さんが言いました。「ワシはPPKで逝く」どう言う意味かと尋ねると、「びんびんころり」の略だそうです。つまり、死を迎える直前までは元気に仕事をしたり、余暇を楽しんで、身体の調子が悪くなった際には、家族や周りに迷惑をかけることも苦しむ事もなく終末を迎えたいとの事でした。私はなるほどと思いました。長寿の国日本に暮らす中でいかに健康を保とうかと考えています。が、視点を変えて、「びんびん元気に生きてころりと逝く」こう考えると気楽に人生が楽しめます。

## 定時制だより

四十一回生

高橋佐代子

私がこの三河に住むようになってもう三十三年。生まれ育った高知で過ごした年月よりも長くなってしまいました。出稼ぎで愛知県の教職員になって、振り出しの普通科進学校から始まって、職業高校を経て、現在は夜間定時制高校に勤めています。

今ではもう生徒も自分の子供よりも若い年齢になり、生徒からみると私などはもう「おばあちゃん」の部類に入らしく、コミックのGTO [Great Teacher Onizuka] グレートティーチャー鬼塚、をもちって生徒から、「Great Tamageta Obachan グレートたまげたおばあちゃん」と呼ばれたりしています。

定時制高校についてみなさんの抱いているイメージは、昼間働く勤労青年が、夜勉強に励む学校といったものだら

うと思います。今の定時制高校のあれこれをお伝えして、高校といってもさまざまあることを、知っていただけたらと思います。

昼間の高校は三年で卒業ですが、夜間高校は四年間通います。以前は紡績会社に勤める女工さんが多くいたり、働きながら通う生徒がほとんどでした。時代の変化で、今ではパートなどで働きながら夜間高校に通っている生徒の割合は半分以下です。

なかには四十代、五十代の生徒がいることもあります。子育てに一段落して、高校の卒業証書を手にするのを夢見て、四年間がんばる姿は、十代の生徒には良い刺激になっています。

最近では登校拒否でほとんど中学校へ行けなかった生徒が、多く定時制や通信制高校に来るようになっていきます。または高校を中途退学して、社会に出たものの、今の社会は高卒の資格がないと仕事に就きにくいことが分かって、入り直す生徒もいます。

今年はポリビア国籍の、日本語が流暢に話せなかった生徒が、やがてクラスに融け込みがなばって、見事な日本語の作文を書けるようになって卒業していきました。

親が親の役割を放棄したような家庭的問題や、経済的問題を抱えた生徒も多くいます。

いろいろな理由があつて、普通の昼間の高校に行けない生徒達の来るところとして、定時制高校は存在理由があるような気がします。

卒業式は毎年、入学したときの半分の人数で迎えることが多いです。半分の級友が途中で去っていっただけに、残つて卒業を迎える生徒の感動は強いものがあります。

今年の卒業生の国語の授業の作品を紹介します。

- ・四年間奴等居てこそ皆勤に
- ・暗き道手探り歩く門の前
- ・夕焼けを眺めながらの登校時
- ・四度目の春が巡って別れ時
- ・夜起きて気付いてみたらもう遅刻

### 青春の後半部分を書いてみました

五十二回生

清谷 知郎

出身高校の名前を尋ねられて一度も嫌な思いをしたことがなく、逆に出身大学を名乗つて唯の一度も良い思いをしたことがない。

「文化果つる地・ナゴヤ」の通称・封建閉鎖大学でのたうち回り、苦しみ抜いてやつと卒業にこぎつけてようやく医者になれたが、さすがにドキュメンタリー・タッチで書くのはためらわれ、舞台を沖繩に移して私小説仕立てで原稿用紙五〇〇枚に思いを叩きつけた。

あらすじは「南の島の四流医大に全国各地から集まった医学生たちの涙と笑いの青春群像」といったところで、肩のこらない楽しい読みものに仕上げたつもりである。処女作の「アルプス席の全力疾走」を九十年に同窓会か

暗闇でも愛と夢そして友情はある!  
ワンマン総長と超管理体制の  
沖繩「かりゆし医大」に入学した茂野とおる。  
彼の周りに湧き起る事件や心温まる交流と苦悩はいかに?  
予想を超える展開とユーモア溢れるタッチで描く!

あなたはこの小説で涙を流さないといえるだろうか!



ら出版させて頂いた時はズシリと責任を感じ、無我夢中で書いたものだったが、今回は「自分が好きこのんでペンを執つた」という気楽さもあり、つい長編になった。

タイトルは「ノーマンズ・ランド」・サブタイトルが「封印された青春」で、前回と同じく崎村泰斗のペンネームで上梓した。出版社は文芸社で定価千四百円（税別）。同窓会の皆様にも是非一度手に取って、お読み頂ければ幸いである。

野球部の新人の中には有力なバッテリもおり、「夏の甲子園十四年周期説」に従えば今年こそにつくき大阪明德を倒して夢の甲子園へ、と春先からその気になっている。

#### 編集後記 なごや・ん?

イラク戦争・新型肺炎の世界的流行・各地の自爆テロなどの大事件が続発しています。地球の危うさも迫ってきます。私事ですが川柳作品集『柿の木』を自費出版しました。読んでもらいたかった母は逝ってしまいました。(内田順子)